

2021年

リカバリーサポート・ネットワーク 電話相談事業概要報告

認定特定非営利活動法人
リカバリーサポート・ネットワーク
代表理事 西村直之

リカバリーサポート・ネットワーク(RSN)は、電話相談事業を開始して満16年となった。新型コロナウイルス感染症の流行が遷延し、特に事務所のある沖縄県の感染状況は全国の中でもひどく、相談事業への影響を最小限に食い止めながら維持することを最大の目標とし活動を行った。

このような状況ではあったが、電話相談事業に加え、認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)ワンデーポイントとの共催事業である本人・家族向けの対面相談事業は、オンラインでの個別相談に変更して、継続している。

他に、遊技産業のギャンブル等依存症啓発週間取り組みの企画・コンテンツ作成協力、パチンコ・パチスロの遊び方・安全度の自己診断アプリ「パーラジキル&ハイド」無料配布の継続、ホール従業員向け「のめり込み防止・啓発ポスター」配布、RSN発行のホール設置用リーフレット・パンフレットの提供、パチンコホールスタッフ向けe-ラーニング「パチンコ・パチスロ依存問題基礎講座」無償提供、RSNニューズレター「さくら通信」による広報・啓発、公益財団法人日工組社会安全研究財団パチンコ・パチスロ遊技障害研究会における調査・研究協力、依存の問題の支援に携わる人たちの勉強会(沖縄、東京)協力、多様化する嗜癖・嗜虐行動からの回復を支援するネットワーク(ATTA・

net)研究協力、大阪府・大阪市ギャンブル等依存症対策研究会研究員、遊技産業の企業・団体の研究・講師、学会報告、学術論文の投稿・寄稿などを行った。

電話相談事業の成果の概要

2021年1年間のRSN電話相談事業の成果についての概要報告を行う。以下、ここで報告する本人データは、ばちんこユーザーの中でも問題を自覚し、かつ電話相談するという行動を起こした人たちから聞き取った内容である。RSNの電話相談の利用者がばちんこユーザーを代表しているわけではなく、電話相談から得られる情報・データは学術調査用にデザインされたものでもない。そのため、RSN電話相談事業に関する情報・データはRSNの電話相談利用者に関するものに限定されており、パチンコ・パチスロの問題を抱える人たちの全体像を現しているわけではないことを強調しておきたい。

2021年の1年間にRSN沖縄事務所で受けた電話相談は、3403件であった(RSN支援室対応、夜間対応含む)。1年間の総件数3403件は、前年2020年の3703件より300件少なく、年間相談件数は、夜間対応を開始した2017年以降

では最も少なかった(図1)。1カ月あたりの平均件数は284件であった。2006年4月の開設からの累計件数は43319件となった。前年に続き、COVID-19の流行、感染流行に伴うパチンコホールの休業、遊技参加者の減少、パチンコホール数の減少などが、相談件数の減少につながっていると推測している。

電話相談を通話時間によって10分ごとに分類すると、10分未満の短いものが1470件(43%)で最多であった。次いで10分〜20分未満の769件(23%)、20分〜30分未満の556件(16%)となっており、30分未満の電話が82%を占めた。電話相談を通話回数ごとに分類すると、RSNへの電話が初めての相談(初回相談)が1537件(45%)、2回以上の複数回の相談(複数回相談)が1176件(35%)、主にRSN支援室での対応となる間違い・無言・問い合わせの電話が690件(20%)であった。2020年と比べると、初回相談は321件減少(前年比83%)し、複数回相談は65件増加(前年比106%)した。

データの詳細解析は解析のバイアスを少なくするため、初回相談者のみを対象としており、これ以降のデータは初回相談1537件のみの解析結果となっている。

初回相談1537件の転帰は、「他

機関紹介」576件(37%)、「電話相談終了」961件(63%)であった。他機関紹介の紹介先としては、最も多かったのは医療機関(主治医戻しを含む)192件(12%)で、次いでギャンブラーズ・アノニマス(GA)121件(8%)、精神保健福祉センター73件(5%)、RSN対面相談会43件(3%)、という順であった(複数回答を含む)。COVID-19の影響で、グループミーティングを休止した組織も多く、2021年はGAへの紹介は行いづらかった。また、対面相談が必要な新たな相談先(精神保健福祉センターや法テラスなど)への紹介も、COVID-19流行下では控えることが多かった。

既に心療内科を含む精神科医療機関に通院中の相談者に対しては、原則として主治医に相談するよう伝えるという方針で電話相談に臨んでいる。特にCOVID-19流行下では、相談者の安全を考えると、新たな相談先を紹介するよりも、現在の主治医との相談で問題解決を進め行くような働きかけが重要と考え、その考えに基づいて対応した。

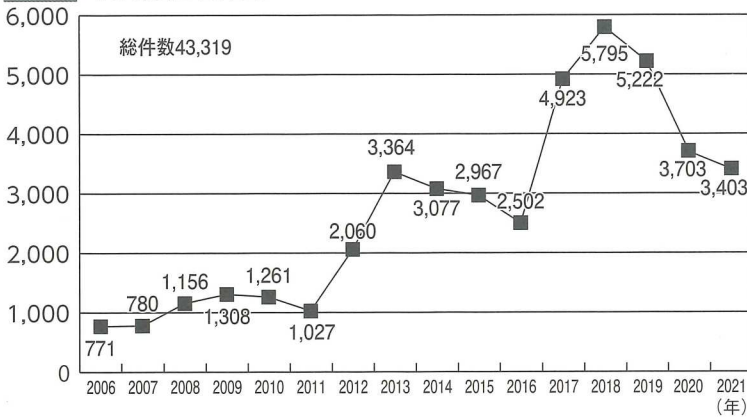
電話相談へつながった相談者の対象者との関係性の内訳は、問題のある本人が1304件(85%)、家族・友人が231件(15%)、医療機関や相談・支援機関などで援助・支援する援助者



が2件であった。相談者の性別は、男性が1133件(74%)、女性が404件(26%)であった。相談者の年齢の分布を年代ごとに見ると、件数の多かった順に、20代392件(25%)、30代340件(22%)、40代337件(22%)、50代210件(14%)、60代129件(8%)、70代64件(4%)、80代54件(4%)、90代9件(1%)、100代2件(0%)であった。相談者がRSNの電話相談に至った経路は、ホール内に貼付されたポスター1651件(42%)、インターネット496件(32%)の順が多かった。遊技産業の自主的な取り組みの推進により、ホールによる新聞への折込チラシやホールに設置された遊技機の遊技方法や特徴を説明する小冊子、依存問題について啓発するリーフレットといった配布物、「安心パチンコ・パチスロアドバイザー」に代表されるホールのスタッフによる啓発協力、ぱちんこホール内設置ATM機の画面やレシート裏を活用したRSN電話相談の啓発など、ホールに関連した経路は多様化し、それらが広報・啓発に効果を上げていることがうかがわれた。

RSNの電話相談を利用する以前に他の機関に相談した経験が「ある」と回答した相談の件数は240件(16%)、「ない」と回答した件数は1005件(65%)、不明あるいは回答することを拒否した件数は292件(19%)であった。6割以上の相談者が、ぱちんこに関連して生じた問題についての初めての相談先としてRSNの電話相談を選んでいた。相談経験が「ある」と回答した相談のうち、RSN以前の相談先として最も多く挙げられていたのは医療機関であった。2021年1年間にRSN沖縄事

図1 年次別相談件数



務所が受けた初回相談1537件のうち155件(複数回答を含む)が、精神科や心療内科などの医療機関での診療あるいは治療を経てからRSNに電話相談をしていた。

相談者(本人)の詳細

さらに初回相談者のうち、問題のある本人に1304件に絞って解析を行うと、性別は、男性1065件(82%)、女性239件(18%)、年代分布は、多い順に20代373件(29%)、30代290件(22%)、40代287件(22%)、50代162件(12%)、60代92件(7%)となっていた。20代が最多

表1 総件数および月別相談件数

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
2006年	0	0	0	110	102	82	86	119	90	87	57	38	771
2007年	93	54	71	72	68	52	50	66	93	72	56	33	780
2008年	46	63	175	103	114	90	113	98	94	92	83	85	1156
2009年	95	108	112	128	128	128	124	112	120	103	79	71	1308
2010年	70	115	127	117	133	125	93	95	120	113	87	66	1261
2011年	68	79	89	88	93	98	60	83	94	84	96	95	1027
2012年	135	97	105	96	95	102	125	159	235	343	330	238	2060
2013年	273	282	284	316	352	285	290	233	265	299	287	198	3364
2014年	274	225	232	268	325	261	256	269	283	244	242	198	3077
2015年	209	230	299	304	262	281	252	239	221	249	247	174	2967
2016年	203	245	249	211	226	227	207	181	210	175	194	174	2502
2017年	171	348	473	439	450	445	391	473	371	377	519	466	4923
2018年	509	504	522	406	499	445	459	517	463	532	527	412	5795
2019年	462	503	515	423	487	453	469	363	434	370	360	383	5222
2020年	422	347	401	285	187	278	309	315	294	319	258	288	3703
2021年	288	330	379	295	277	294	256	296	252	260	237	239	3403
計	3318	3530	4033	3661	3798	3646	3540	3618	3639	3719	3659	3158	43319

2018年以前の相談件数については、RSN沖縄事務所受けた相談件数に加え、全商協RSN支援室の対応(2015年8月~2018年3月)、RSN東京事務所での夜間対応(2017年11月~2018年9月)を統合した件数を提示した。



で、30代、40代と、年代が上がるにつれて件数と構成比率は下がっていた。RSNへの電話相談以前に別の機関・団体に相談した経験が「ある」と回答したのは189件(15%)、「ない」と回答したのは862件(66%)であった。電話相談の結果(転帰)として最も多かったのは、他機関・他団体の紹介を行わずに相談を終える「紹介先なし」858件(66%)であった(複数回答を含む)。「紹介先なし」に次いで、医療機関(主治医戻し含む)177件(14%)の紹介が多かった。パチンコホールが実施している「自己申告・家族申告プログラム」の紹介を分類するために、2021年に項目として「パチンコホール」を追加した。本項目は12件(1%)であった。本人・初回の相談者を就業形態で分類すると、正社員・契約社員などの「常勤」が505件(46%)で最も多く、次いで、派遣社員・アルバイト・パート・就労継続支援利用者などの「非常勤」が210件(19%)であった。常勤であれ、非常勤であれ、715件(65%)は職に就いている人であった。相談者(聞き取り数1064件)がのめり込んでいる(あるいは、依存している)と感じている遊技の種類(パチンコ、パチスロ、その両方)は、両方434件(41%)、パチンコ405件(38%)、パチスロ225件(21%)であった。2020年と比較して、パチンコの割合が増加し、パチスロの割合が減少した。問題化した年齢については、男性では20歳が最も多く、18歳から30歳までに件数の多い年齢が集中していた。

表2 本人の性別・年代

	2020年	2021年
男性	1350(85)	1065(82)
女性	235(15)	239(18)
計	1585(100)	1304(100)

(初回・本人のみ。表カッコ内はパーセント)

	2020年	2021年
10代	47(3)	52(4)
20代	494(31)	373(29)
30代	393(25)	290(22)
40代	337(21)	287(22)
50代	188(12)	162(12)
60代	95(6)	92(7)
70代	26(2)	40(3)
80代	5(0)	7(1)
90代以上	0(0)	1(0)
計	1585(100)	1304(100)

(初回・本人のみ。表カッコ内はパーセント)

度の相談者は908件(94%)であった(聞き取り数964件)。1回の遊技時間を1時間未満から8時間以上まで1時間ごとに区切って分類したところ、「5〜6時間未満」141件(16%)が最も多く、「2〜3時間未満」138件(16%)、「8時間以上」131件(15%)、「4〜5時間未満」125件(15%)であった(聞き取り数854件)。1カ月の遊技金額は「5〜10万円未満」296件(31%)が最も多く、「10〜20万円未満」が221件(24%)、「2〜5万円未満」が218件(23%)、「20万円以上」が124件(13%)であった。遊技金額が10万円以上の相談は345件(36%)あった一方で、「失っていない」とした相談が30件(3%)、「1万円未満」が10件(1%)など、比較的少額の遊技金額で問題を感じて相談につながる人もいた。ぱちんこ以外のギャンブリングの経験について「なし(経験がない)」と回答したのは738件(76%)、「あり(経験がある)」は238件(24%)であった(聞き取り数976件)。ぱちんこ以外のギャンブリングでは競馬が104件

で最も多かった。相談時点における借金の有無では、借金がある人は555件(52%)、ない人は518件(48%)であった(聞き取り数1073件)。債務整理経験の有無については、債務整理経験あり183件(18%)、債務整理経験なし833件(82%)であった(聞き取り数1016件)。本人の初回相談1304件のうち、「PPDS短縮版」の6項目に対して有効な回答を得ることのできた相談は296件(23%)であった。合計得点の分布の平均は17・42点、カットオフ値である14点以上の人数は247人(83%)であった。

問題ギャンブリングに対する評価法である「SOGS簡易評価版」で評価できた271件の平均点数は3・94点であった。パチンコ・パチスロ遊技障害の専用尺度である「PPDS短縮版」で評価できた296件の平均点数は17・42点、カットオフ値である14点以上の人数は247人(有効回答者の83%)であった。

表3 遊技する頻度

	2020年	2021年
年1回	0(0)	1(0)
半年に1回	1(0)	1(0)
2〜3カ月に1回	6(1)	5(0)
月1回	8(1)	8(1)
月2〜3回	20(2)	25(3)
週1回	70(7)	71(7)
週2〜3回	342(34)	288(30)
週4回以上	554(55)	549(57)
遊ばない	5(0)	16(2)
計	1006(100)	964(100)

表4 1回の遊技時間

	2020年	2021年
1時間未満	7(1)	6(1)
1〜2時間未満	37(5)	45(5)
2〜3時間未満	130(17)	138(16)
3〜4時間未満	107(14)	123(14)
4〜5時間未満	100(13)	125(15)
5〜6時間未満	134(18)	141(16)
6〜7時間未満	53(7)	73(9)
7〜8時間未満	59(8)	56(7)
8時間以上	126(16)	131(15)
遊ばない	5(1)	16(2)
計	758(100)	854(100)

表5 1カ月の遊技金額

	2020年	2021年
1万円未満	23(2)	10(1)
1〜2万円未満	29(3)	31(3)
2〜5万円未満	192(19)	218(23)
5〜10万円未満	308(31)	296(31)
10〜20万円未満	265(27)	221(24)
20万円以上	154(16)	124(13)
失っていない	17(2)	30(3)
遊ばない	5(0)	16(2)
計	993(100)	946(100)

(初回・本人のみ、不明を除く。表カッコ内はパーセント)